

# Jトップ株式会社

## 開発型企業として環境技術でイノベーション起こす

海外発注可  
オンライン技術



本社工場で製造する浄化処理装置

**主な事業内容**  
産業用排水（工場排水）  
浄化処理装置の開発・製造・販売

**主な取引先（納入先）**  
産業機械メーカー、総合商社、  
大学など研究機関ほか

**主な製品**  
水処理設備、排水処理設備、  
活性炭再生装置、無害化装置など

### 業務内容 オンリーワン技術で 創業・装置納入を拡大

パナソニックで環境関連技術の研究開発を行っていた仲喜治一社長が独立し、平成21年12月にJトップを設立。排水浄化装置に使われる活性炭をオンサイトで再生できる技術を大阪府立大学内で研究後、自社で特許を取得した。オンリーワン技術を生かした創業を評価され、ベンチャーキャピタルから約7,000万円の出資を受けてスタート、順調に歩みを続けてきた。産業排水などの浄化処理装置をこれまでに、数十台以上納入した実績を持つ。環境省やJICAなどの海外支援プロジェクトでインドネシアやベトナムにも装置を納入。現在はJICAプロジェクト事業と、環境省のベトナム水環境改善事業を進めている。

### 強み 活性炭再生の手間、 コストを大幅削減

浄化装置に用いる活性炭を取り出さず、約400℃以上の過熱水蒸気を噴射して活性炭に吸着した物質を蒸発・脱着除去し、再生利用する技術が同社の強みだ。従来方法では活性炭を取り出して再生場所まで運搬し、キルン炉で約1,000℃以上の高温で焼いて賦活化

していた。活性炭の取り出し、炉の投入などの作業に手間がかかるのに加え、約40%以上の活性炭を消耗するため、補充用活性炭購入量が多くなる。さらに、往復物流コストも加算され、環境面・経済面的にコストがかかっていた。これに対し同社のオンサイト再生は、活性炭を移動する必要がなく、消耗率は約0・1程度とわずかな補充量で済む。

### 独自技術 多方面から注目を浴びる 持続可能製品と独自の技術

同社のオンサイト再生は、電気加熱の水蒸気賦活再生方式で、約6時間未満の短時間で再生でエネルギー使用量も少なくCO<sub>2</sub>排出も少ない。ランニングコストを大幅に削減できる持続可能な製品であり、海外市場からの需要も多い。持続可能な製品として国連UNIDO（国際連合工業開発機関）のSTEP製品（サステナブル技術普及プラットフォーム）として認定されている。

また、活性炭再生技術は多くの請求項で特許を取得した。そのため、他社が容易に真似することができず、広く権利を押さえた戦略が実を結んだ。ポイラー大手の三浦工業からの出資を得て、ミウラブランド販売、また、大阪市立大学とも廃液無害化装置の共同開発を実施した。

### 社長あいさつ



代表取締役  
仲喜 治一さん

活性炭を用いた排水・排ガスの浄化システムの提案・設計・製造を一貫して行い、国内外で納入事例を増やしてきました。「アイデアと技術がイノベーションを起こす」を信念に、開発型企業として自社の技術を向上し、持続可能な地球環境技術に貢献することに全力を尽くしていきます。

### 主な保有設備

- 溶接装置（鋼材溶接）出力電 10~300A  
タイヘン製、パナソニック製 5台
- TOC計（全有機体炭素測定）  
測定範囲 TC.NPOC 0~3万mg/L  
島津製作所製 1台
- ポータブル吸光度計（COD測定）  
測定精度 0.0~0.5吸光度で0.005、  
0.50~2.0吸光度で1% HACH製 1台
- マルチワーカー（アングル材の加工）  
50mm×50mm×5mm（SUS304）サイズまで加工  
日東工器製 1台
- バンドソーマシン（配管切断機）  
直径φ216.3mmサイズまで加工 大東精機製 1台

全国  
02

住 所 / 〒594-0042  
和泉市  
箕形町4-5-44

T E L / 0725-51-3860

F A X / 0725-51-3861

創 業 / 平成21年12月

設 立 / 平成21年12月

資本金 / 8,000万円

従業員 / 15名



<http://www.jtopps.com/>



電子部品工場の排水浄化装置



インドネシアの繊維染色工場に納入